

授業概要

企業は人・物・金・情報といった経営資源を投入として、財・サービスの生産活動を行い、産出した財・サービスを社外の様々な制度部門（家計、（他の）企業、政府、海外）に販売することで、経済活動の中心的な役割を担っています。経済理論では、多数の民間企業が市場で自由に競争することによって均衡取引量と均衡価格が決まる時に経済が最も効率的であると考えます。ただ、自由競争が成立しにくい公益事業（電力・ガス、鉄道、路線バス等）を運営する企業（公益企業）には特別な規制・法律が課されています。

本講義では、企業の形態の中で最も数が多い株式会社を主な対象として、企業の出自・機能・役割、現代の日本経済における企業の地位や産業別の動向、企業活動を円滑化・健全化するための各種制度等について、経済学・経営学・会社法学の基礎的な理論を基にして多くのケーススタディを交えながら講義します。具体的には、第1クールでは企業・企業部門に関するマクロ的な状況について、第2クールでは企業経営の重要な論点について、第3クールでは企業に関する今後の課題について講義します。

授業計画

第1回	【第1クール(総論)】代表的企業形態としての株式会社（内容：株式会社の出自・機能等）
第2回	日本の産業構造と代表的企業とその系列グループ（日本の業種構造と企業グループの概要）
第3回	公益企業の特長性（公益事業への規制の理論的な必要性和その変化、公益企業の状況）
第4回	日本的経営の仕組み（終身雇用と年功賃金を中心とする日本的経営の仕組みとその変化）
第5回	第1クール（1～3回）の総括
第6回	【第2クール（各論①：企業経営の論点）】経営戦略の基礎（ポーターの競争戦略、垂直的統合戦略、フルライン戦略等）
第7回	生産・製品開発・イノベーション（トヨタ生産システムを代表とする日本的生産システム、ポーターのクラスター論、クリステンセンの破壊的イノベーション、両利きの経営等の解説）
第8回	国際化（日本企業の国際化の状況の解説）
第9回	企業財務（日本企業の財務構造・収支構造の海外企業との比較による解説）
第10回	コーポレート・ガバナンス①（コーポレート・ガバナンスの目的、会社・取締役・株主の関係）
第11回	コーポレート・ガバナンス②（ESG投資の拡大などによる情報開示のあり方の変化）
第12回	第2クール（6～11回）の総括
第13回	【第3クール（各論②：これからの課題）プラットフォームビジネス（シェアリングエコノミー等のデジタル・プラットフォーム企業（プラットフォーム）の巨大化の功罪）
第14回	CSR（企業の社会的責任）・SDGs（持続可能な開発目標）への対応（経済・環境・（地域）社会への貢献とその経営への統合が企業に求められていることについての解説）
第15回	全体の総括
第16回	学期末試験として筆記試験を行う。

到達目標

- ・企業とその企業が属する産業界の仕組み・現状を述べることができる。
- ・企業を取り巻く環境を、経済理論・法的制度の側面から説明することができる。
- ・企業の課題を理解し解決のための経営戦略の方向性を分析できる。

履修上の注意

- ・企業経営や産業・経済に関するニュースに日ごろから関心を持ってください。
- ・始業時刻には着席しておくこと。遅刻は15分以内の場合に認めます（15分超の遅刻は欠席として扱います）。ただし、公共交通機関の遅延等で学証資料の提出が可能、かつ大学が把握している事情がある場合には救済措置を検討します。

予習・復習

予習：事前に配布する講義資料の熟読（90分）

復習：講義資料の再読と毎回の授業での課題・レポート等（90分）

評価方法

学期末試験40%、毎回の授業での課題・レポート等50%、受講態度10%。

テキスト

教科書は使用せず、その都度資料を配布します。